

製品名: Cdc25B (リン酸化Ser353) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04422**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	64kDa

抗原情報

遺伝子名	CDC25B
別名	CDC25B; CDC25HU2; M-phase inducer phosphatase 2; Dual specificity phosphatase Cdc25B
遺伝子 ID	994.0
SwissProt ID	P30305
免疫原	抗血清は、ヒト CDC25B の Ser353 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 319-368

背景

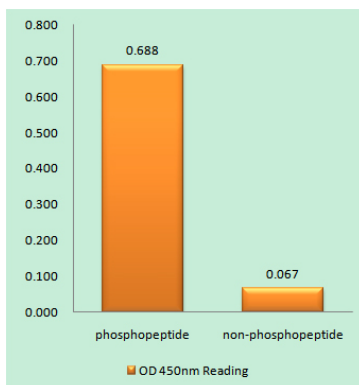
細胞分裂周期 25B (CDC25B) ホモサピエンス CDC25B は、CDC25 ファミリーのホスファターゼの一つです。CDC25B は、サイク

リン依存性キナーゼ CDC2 の 2 つのリン酸基を除去することで活性化し、有糸分裂の開始に必須です。CDC25B は、核局在および核外輸送シグナルにより、核と細胞質の間を移動します。このタンパク質は細胞周期の M 期および G1 期には核内に存在し、S 期および G2 期には細胞質へ移動します。CDC25B は発癌性を有しますが、腫瘍形成における役割は未だ解明されていません。この遺伝子には複数の転写産物バリエーションが存在します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: タンパク質チロシンリン酸 + H(2)O = タンパク質チロシン + リン酸。、酵素調節: B 型サイクリンによって刺激される。、機能: チロシンタンパク質ホスファターゼは、用量依存的に有糸分裂進行を誘導する。CDC2 を直接脱リン酸化してキナーゼ活性を刺激する。3 つのアイソフォームはそれぞれ異なる活性レベルを示す。、PTM: in vitro において BRSK1 によってリン酸化される。CHEK1 によってリン酸化され、CHEK1 はこのタンパク質の活性を阻害する。、類似性: MPI ホスファターゼファミリーに属する。、類似性: 1 つのロダネーゼドメインを含む。、

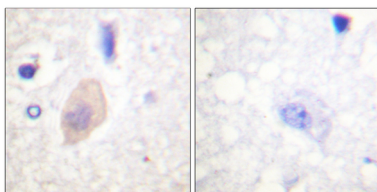
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;プロゲステロンによる卵母細胞成熟;

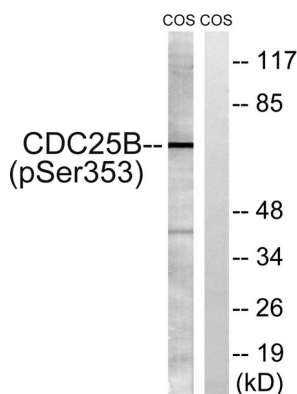
画像データ



CDC25B (リン酸化 Ser353) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



CDC25B (リン酸化 Ser353) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



エトポシド 25 μ M を 24 時間処理した COS7 細胞のライセートを CDC25B (リン酸化 Ser353) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。